

ティアの涙



ティアの涙

作 / クリムゾン



「待てティア

今日は戦いに来たのではない

最後にひとつ

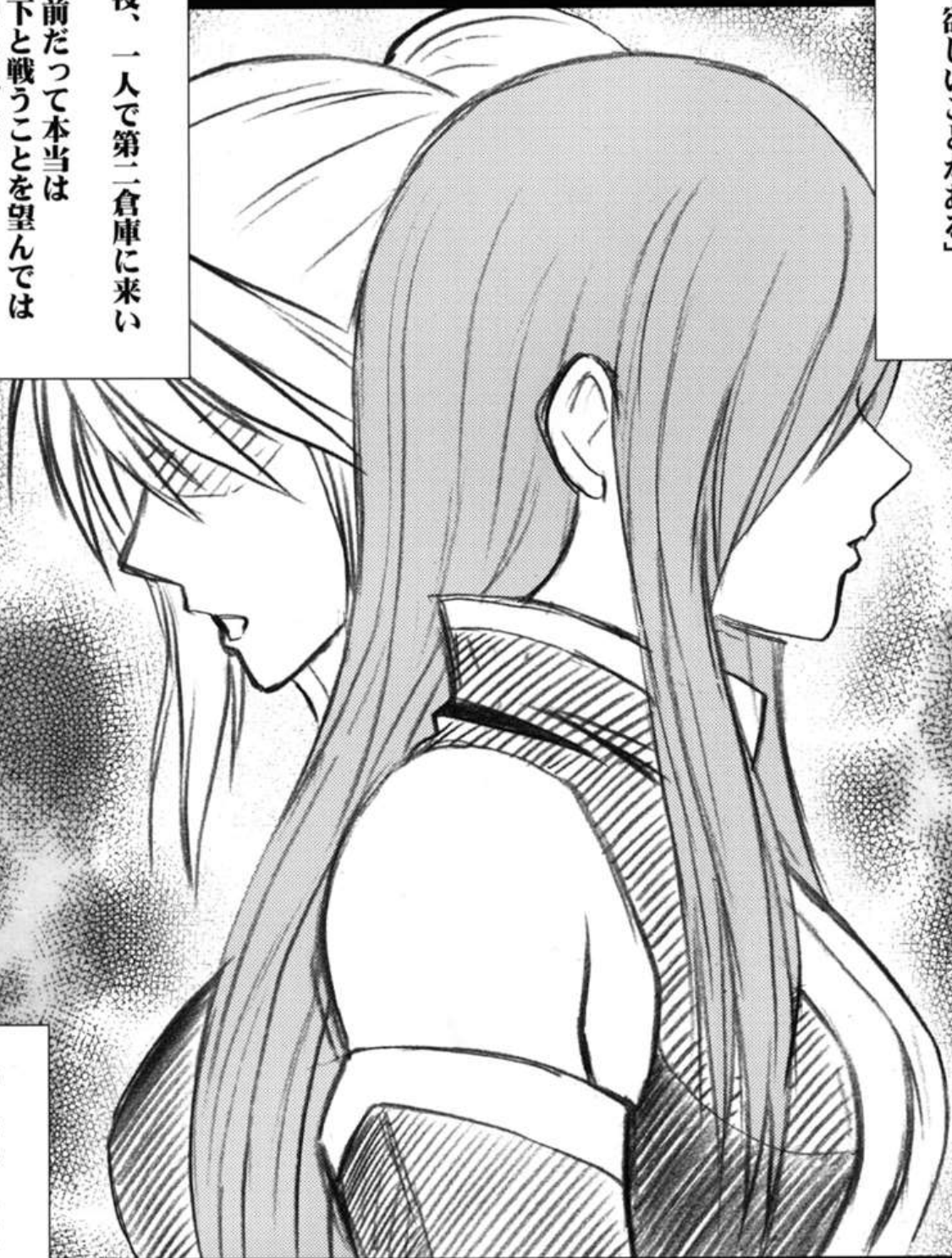
聞いて欲しいことがある」

「夜、一人で第二倉庫に來い

お前だつて本当は

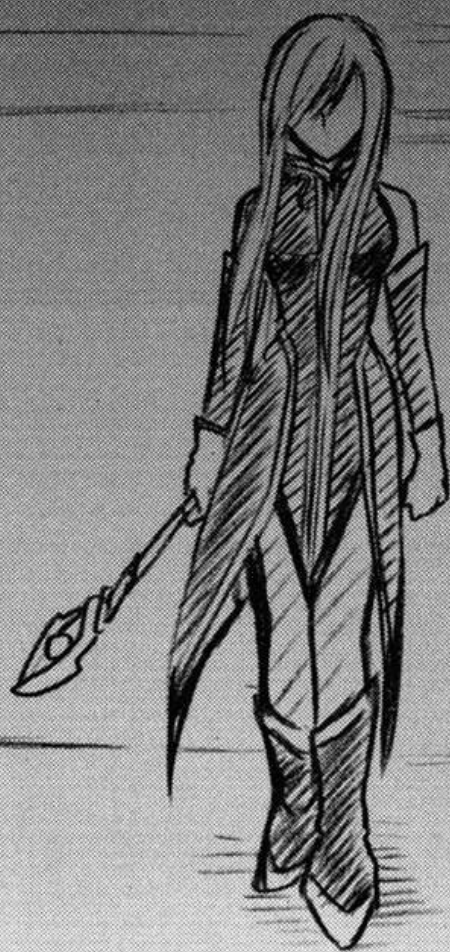
閣下と戦うことを望んではいないはずだ」

「…わかりました…教官…」



「教官…?」

「どこですか教官?」



ティアの涙

第一話

「理性の壁」



教官じゃない……!!



ミンク……!!

お前はどうしても
こちら側につく気は
ないんだろう？

だから
ちよつと強引な手を
使わせてもらうよ



……!!

か…体が…勝手に…!!

カースロッドだよ
知ってるだろ？

お前はもう
僕の傀儡だ

ググッ

このまま殺すのは
カントンだけど

リグレットが
どうしてもお前を
こちらに
引き込みたいと
言ってるね

ちよつと
協力して
やるのさ





まさかとは思ったけど

本当に目の前で
オナニーを始めるとはね



被術者が
望んでいないことは
実行させられない



違うよ：
カースロッドは
心の奥に潜む
抑えられた欲求を
解放することで
人を操る譜術



ば...ばかなこと
言わないで！
これは
あなたが操ってる
から...！

お前は本当は
人前で
オナニーがしたくて
たまらなかつたって
ことさ

アハハハハ！

そんな…ッ！

ちがつ…！

私が…
望んでる…？

そんなはずは…！

おや？
もう
始まっているのか





どうだ？

んっ…

こうすると
気持ちいいだろう
分かったか？

……っ！

ググッ

グッ

あとは
自分で
やってみろ

そうだ…
相変わらず
飲み込みが早いな

…!!

グッ

んっ！

グッ

グアイッ





あぁあッ!

ビクッ
ビクッ

ビクッ
ビクッ



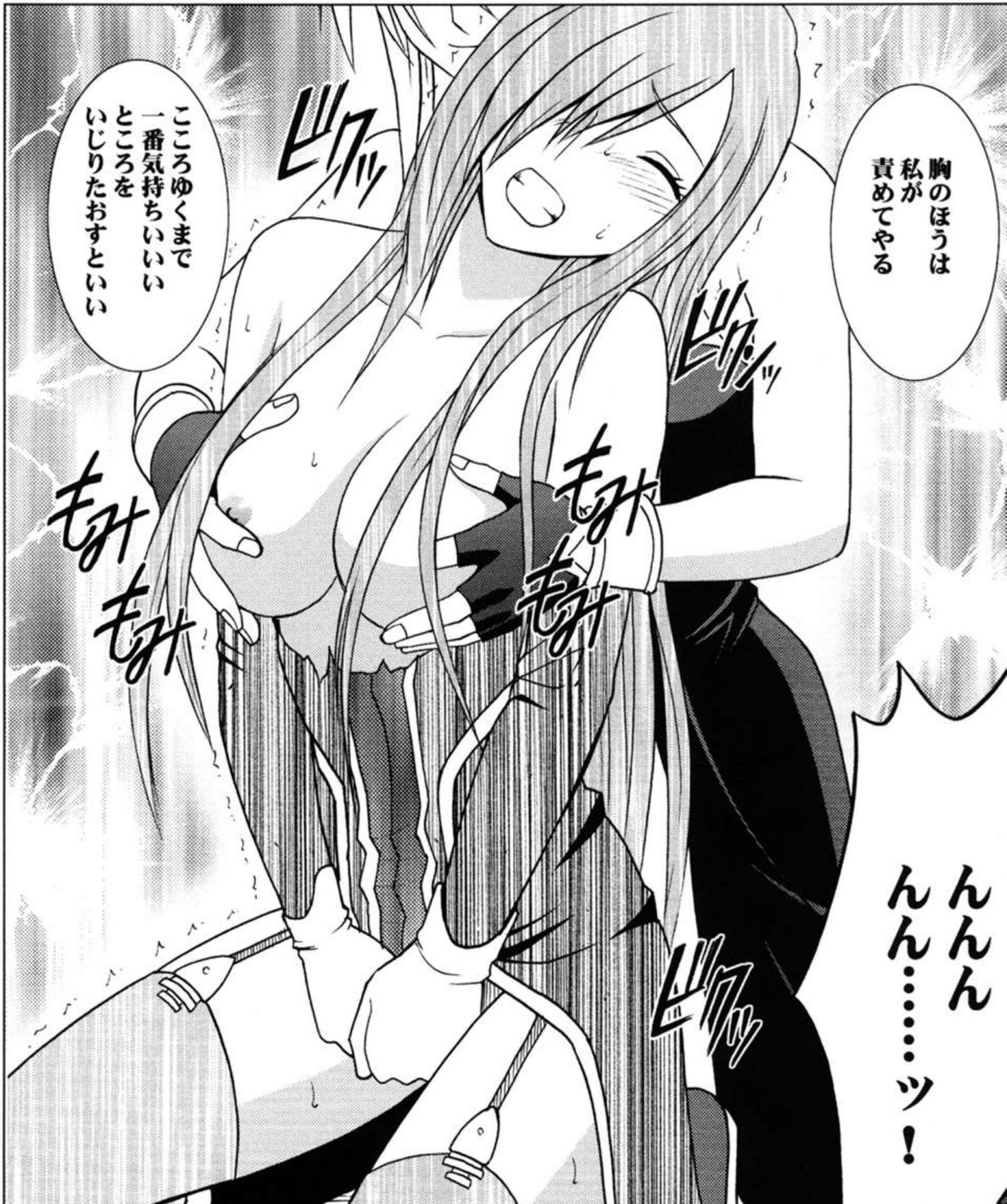
そうだ
そうやって
自分の気持ちいい
ように
触ってみろ

はアツ!

胸のほうは
私が
責めてやる

こころゆくまで
一番気持ちいい
ところを
いじりたおすといひ

んんん
んんん
んん……ツ!





なかなか
スジがいいな

フフフ
こうやって
教えていると…

昔を思い出すな
ティア

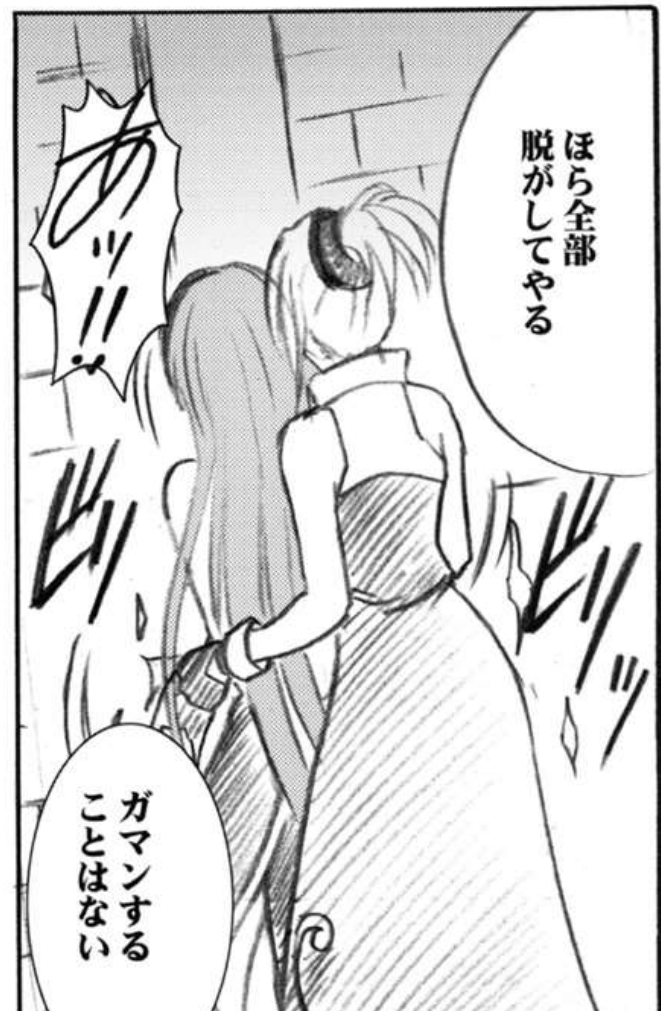
ああああ
あああッ！



このまま
続ければ
もつともつと
良くなれる

はッ！

くッ！



ほら全部
脱がしてやる

ガマンする
ことはない



んッ…

ぶるるるるるる

くッ…

ばか…!
私のばか…!

何をせし…

あッ!
もみもみ

ビクッ

ビクッ

ああッ!

何で…何でこんなこと…!

クチュクチュ

ビクッ

はッ!

フッフ
リグレットの言った
通りだったね

これなら
こちら側につくの
時間の問題かもね

あッ!!



一度快感を知ってしまった体はもう戻れない

アッ

アッ

アッ!!

びるびる!!



何をそんなにガマンしてあるんだ?

いいんだぞ
ティア
イツても

あああつ!

あああ
ああツ!

んんん
んんん
!!
ん

んんんつ!

自分の指に...

ツツツツ

ツツツ

犯されてる...!!



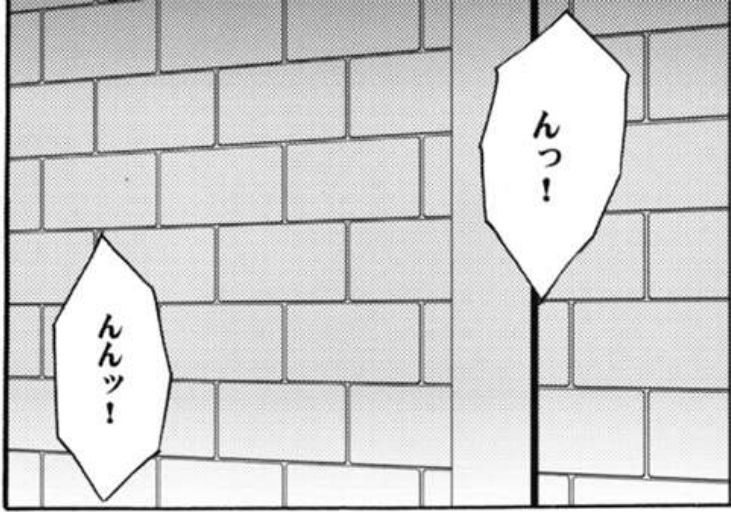
ティアの涙

第二話

「懇願」



そんなに
お尻の穴が
イイのか？



んっ！

んんッ！



今日はじめて
オナニーを知った
女とは思えないな

イツてもイツても
まだまだ
欲しくて
たまらなそうだな

はっ！

あ？...



んっ…
やめられなく
なるだろ？

カースロッドは
理性の抑制が
きかなくなるからな

アール
アール



くううッ！

それにしたっ
て少し
イキすぎだな

ぐわ

ぐわ

こんなこと
いつまで続けても

ハッハッ

ハッハッ

ハッハッ

兄の計画に
協力することは
絶対にありません！



私の手だけで
何とかしようと
思っていたのだが…

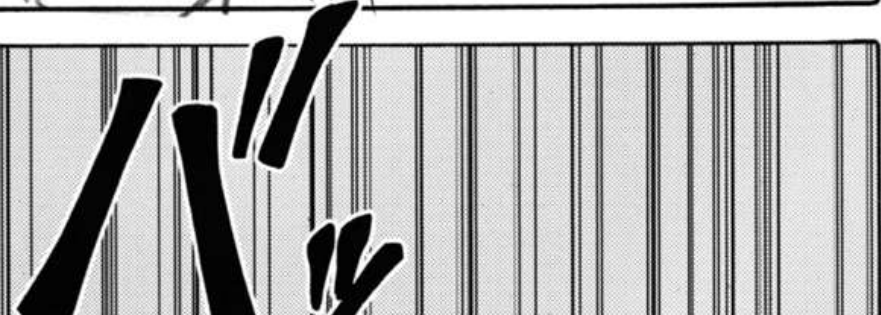
…！



こんな卑怯なことを
するのなら
なおさらです！



そうか…
残念だ…





はなして！

ごやっ！

グイッ



お前が淫乱の素質を
持っていることは
分かった

あとは
そいつら

んっ！

性の能力に特化した
レプリカ達に
かわいがって
もらえ

あっ！！





そのかわり
自分で足
おさえるんだね

はなして
やれよ

ギシ



はなして!

んんっ…
はなしッ…
てっ!

ギシ



バツ

.....





ハハハ
その格好
恥ずかしいだろ？

!!

グキョ

自分から
誘っているみたいで
余計に屈辱
なんじゃない？



あああッ！



ニユルッ



グキョ



くちゅ
くちゅ

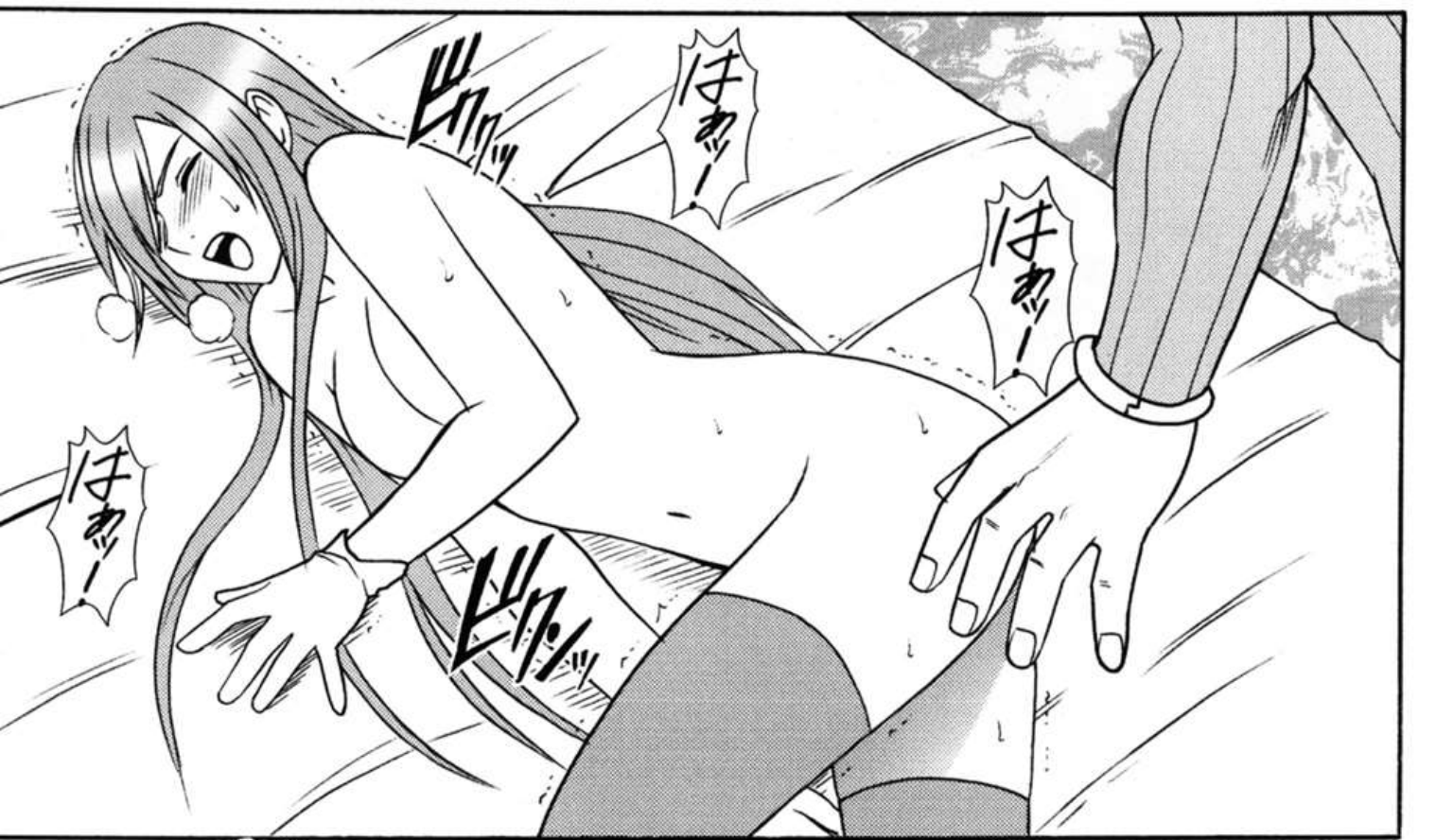
あッ

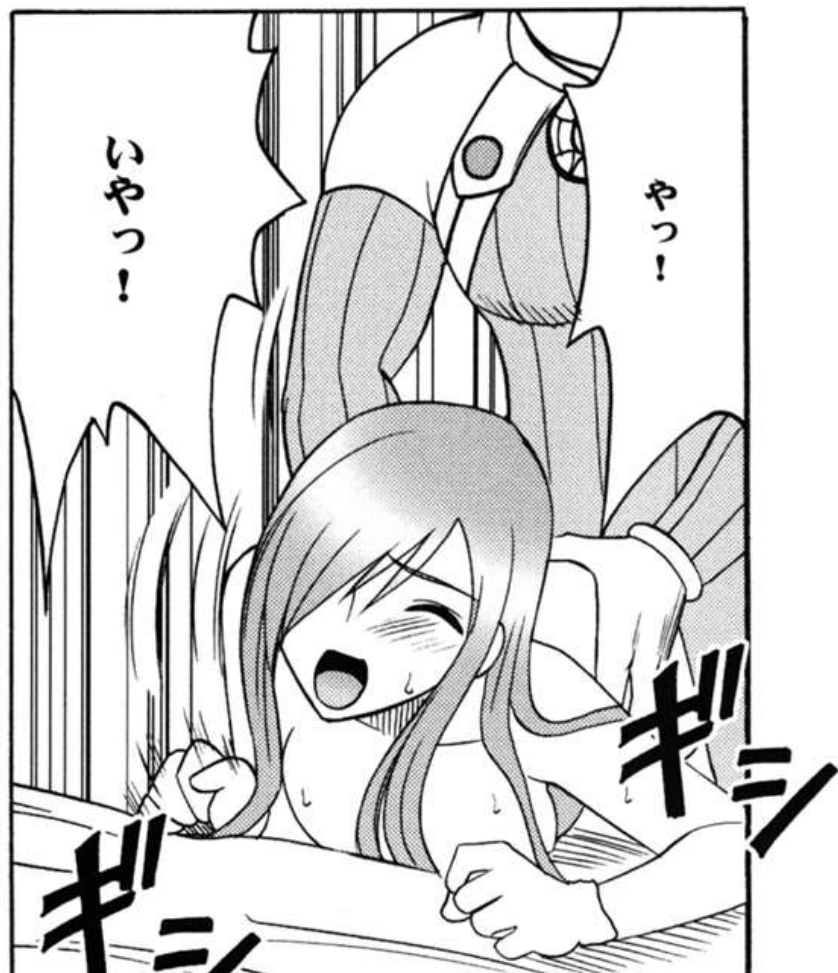
くちゅ
くちゅ

あッ
あッ

あッ
あッ

あぁあ
あぁあ
あッ









犯^やれ

あ
あ
あ
あ
ツ
!

ツツツ





あぁあッ!

あぁあ
あぁッ!



フィル

!!

ビクッ

何もできない...!!



あぁッ!

くっ...
抵抗じたいのに...

ズクッ

ズクッ



もう
抵抗しないんだね

んッ!

んッ!

フッフ...

んッ!

んッ!



チ●ボさえ
入れてしまえば

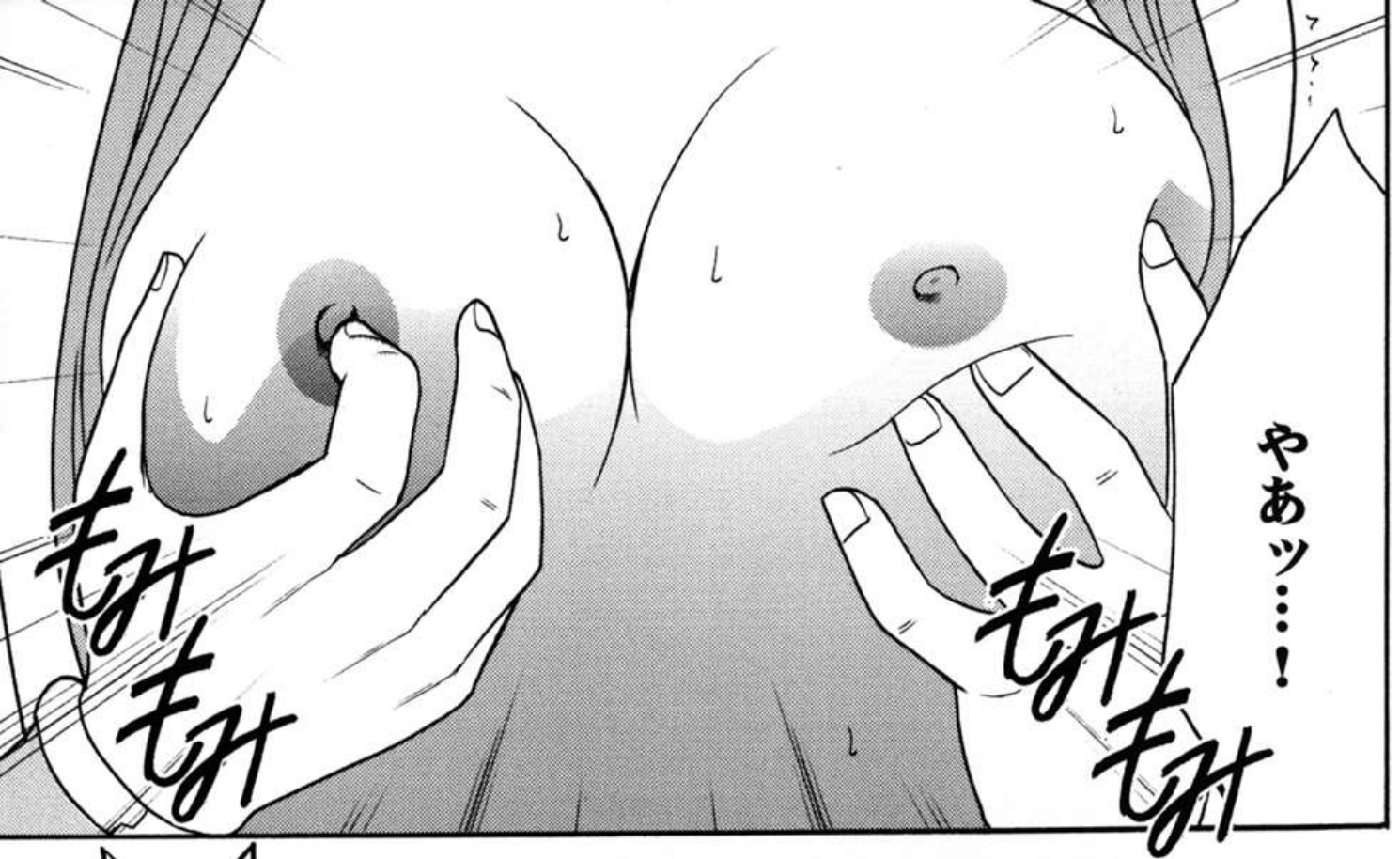
んッ!

あああッ!

んッ!

カースロッドなんか
使う必要ないって
ことか

んッ!



やあッ……!

モッ
モッ

モッ
モッ



はああ
ああッ!

ムッ
ムッ

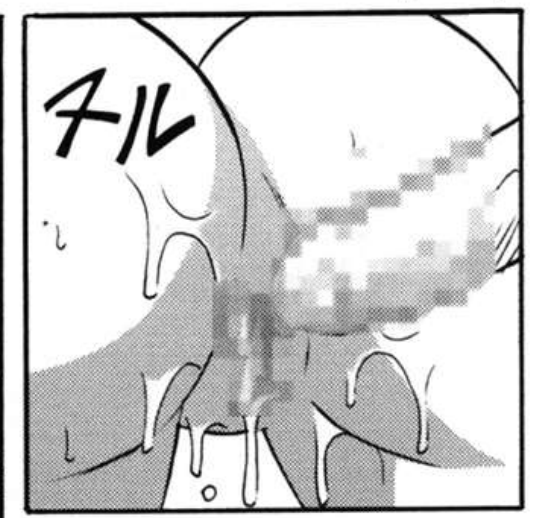
ムッ
ムッ

ムッ
ムッ

ムッ
ムッ



あああ
あああ
あッ
!





あとがき


テイルズシリーズの本を描くのはこれが二回目です。
一回目はテイルズオブフェスティニーのナナリーで描いたのですがこれがまったくダメな作品だったので
いつかテイルズシリーズでもう一度描こうと思っていました。

ティアの服装はとてもかわいいのですがゴテゴテしているので
着衣のままHするわけにもいかず、どこまで脱がすべきか迷いました。
結局ほとんど脱がしてしまいましたが、もうちょっと服を残しても良かったかと思います。

ティアといえばメロンとも評される胸ですが
今回のお話ではあまり胸責めが描けませんでした。
巨乳とはいえ、やはり絵柄の関係上スレンダー体型になるので
あまり巨乳らしさを強調できなかつたかもしれません。

要望が多ければまたティアで描きたいです。
ベルケンドの精密検査のシーンをもっと拡大バージョンで描こうかと思っています。

テイルズオブジァビスはとても面白かったですね。
テイルズシリーズを全部やっているわけではないので断言はできませんが
シリーズ最高傑作と言ってもいいのではないのでしょうか。
とくにストーリーが最高でした。
普通のゲームならばアグゼリウス崩壊のイベントがクライマックス直前に値するくらいのイベントなのに
あれがまだ序盤というのがビックリしました。
「1回から9回まで全力投球」という印象を受けましたね。
キャラクターもメインの6人全員個性的でキャラ立ちしていたと思います。
フェイスチャットというシステムも完成されていますね。
あのシステムのおかげでキャラクターの魅力が引き出されたかと思います。
主題歌もストーリーにあっていて良かったです。
めずらしく二周目までプレイしました。



ベルケンドの病院で
体の精密検査を
受けることになったティア

まずは体にたまっている瘴気を
測定すると言われ
服を脱がされ
振動する機械を胸に
当てられる。

次に子宮で測定すると言われ
下着を脱がされる。
医者のがまのティア。

甘い痺れが快感となって
何度も何度も襲ってくるが
真面目な検査だと
思い込んでいるティアは
必死で声をガマンし
唇を噛みしめて辱めに耐える。





ビクビクッと反応してしまう
ティアの体。
医者はじっとしてくれないと
測定ができないと言って
ティアの体を押さえつけ
いつまでも振動する機械を
ティアの恥部に当て続ける。



初刷 2006年5月21日 発行

「クリムゾン」PRESENTS

ティアの涙

<http://www.alles.or.jp/~uir>

印刷 大陽出版株式会社さま



この本をご購入していただきありがとうございました。
ネットなどに転載をしないよう どうかよろしくおねがいます。



ティアを仲間に引き込みたいリグレットはカースロットを使ってティアを墮としにかかる。
体を操られたティアは自分の意思に反し、人前でオナニーをはじめ
徐々にHな素質を引き出されていく。
リグレットには少し触っただけでピクンと反応してしまう敏感な胸をいじりたおされ、
大勢のレプリカには囲まれてイクまで指でこねくりまわされ…。